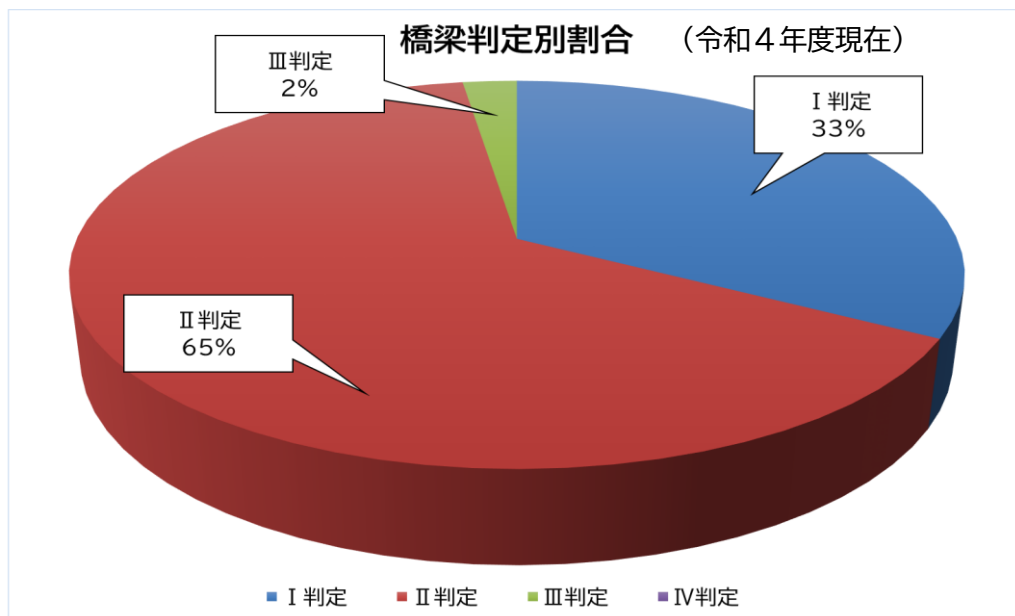


【生駒市橋梁長寿命化修繕計画】

1. 背景

本市が管理する橋梁は、令和4年度現在で、257橋架設されている。このうち、建設後50年を経過する橋梁は、全体の10%程度を占めており、20年後には、80%程度に増加する。また、橋梁定期点検の結果においては、下記の表のとりの割合となっており、今後、Ⅲ判定橋梁の割合の増加が懸念される。これらの高齢化を迎える橋梁群に対して従来の対処療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大することが懸念される。



2. 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。コスト縮減のためには、従来の対症療法型から“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。そこで本市では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

3. 計画期間

インフラの状態は、経年劣化や疲労等によって時々刻々と変化することから、定期点検サイクル等を考慮の上、計画期間を設定し、点検結果等を踏まえ、適宜、計画を更新するものとし、令和4年度から令和10年度までを短期修繕計画期間とする。

4. 優先度評価の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図れるよう必要な対策を講じる。

対策は、第三者に対する安全性に著しく影響を及ぼし、緊急的に対応が必要な損傷がある橋梁を優先的に実施する。

速やかに補修を行う必要がある区分「Ⅳ」または「Ⅲ」と判定した橋梁のうち、将来的に第三者被害の影響が想定されるものや今後も劣化の進行が想定されるものなど、早期に対策が必要な橋梁について対策を講じる。

5. 新技術の活用方針

定期点検の効率化や高度化、修繕等の措置の省力化や費用縮減などを図るために新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログなどを参考に活用を検討し、令和4年度～令和10年度において、施設の点検・修繕等に対し、1割の施設で新技術を活用することを目標とする。上記を踏まえ、令和10年までの7年間に200万円のコスト縮減を目指します。

6. 費用縮減方針

定期点検結果から得られた損傷状況をふまえて、予防保全段階（Ⅱ）判定箇所についても修繕等を検討することで、高コスト化を回避し、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減を図ります。

また迂回路がある、利用者が少ないなど集約化、撤去等の可能性がある橋梁について、交通状況や地域の意向をふまえR4年度～R10年度の間に1橋程度の集約化・撤去、機能縮小を目標とし、将来の維持管理と修繕にかかる費用の削減を目指します。上記を踏まえ、令和10年までの7年間に1000万円のコスト縮減を目指します。